

営業最高速度は時速500

km、東京・名古屋間が最速40分、東京から大阪までを最速67分でつなぐとされるリニア中央新幹線。山梨リニア実験線に試乗した人は「トンネル内の蛍光灯がビームのように見える」「富士山が瞬時に過ぎ去った」と話す、まさに「夢の超特急」だ。東海道新幹線との二重系化により、東海道新幹線の経年劣化への対応や南海トラフ巨大地震などの大規模災害への抜本的な備えとしての意義もあり、開業への期待は高まる。

沿線各地で工事が進むなか、2023年7月、有識者会議で「リニア中央新幹線中間駅を核とする『新たな広域中核地方圏』の形成」が報告された。品川―名古屋間に設置される、神奈川、山梨、長野、岐阜4駅について、地域特性を活かしながら、生活サービス・医療・教育・雇用・観光などの分野で、大都市圏や



阿部民子 text by Tamiko Abe  
Illustration by Shigeyuki Sakata

後背圏域をつなぐハブとなるように提言。中間圏域形成の核として、中間4駅の重要性が改めてクローズアップされた。

### ◎ 伝統校のレガシーを未来につなぐ

中間4駅のうち、品川にもっとも近いのが、神奈川県相模原市の橋本駅南口に設置される神奈川県駅（仮称）だ。11月17日、橋本駅に降り立つて駅の高架から工事現場を見下ろすと、白いフェンスの中にうず高く土嚢が積み重ねられ、工事が進捗している様子が見える。

JR東海中央新幹線推進本部企画推進部の米本太郎担当課長に話を聞

交流することで新たなイノベーションが生まれるまちにしていきたいと考えています」と、まちづくりの概要を説明する。

### ◎ 先端技術を活かした心躍るまち

行政や鉄道会社および周辺企業、住民など、多くの関係者が錯綜し、長期間に亘るまちづくり。複雑な事業の交通整理役を担うのが、UR都市機構だ。UR都市機構は相模原市の要請を受け、市の計画策定の支援をし続けている。

担当課長のUR有賀崇之は「現在は、市が目指すまちづくりをどう実現していくか、関係各所と調整を進めている段階です。我々の使命は、行政や地元の方々の思いを汲み上げ、全員のウィンウィンを探りながら、実現に向けたお手伝いをする」と。これからは次世代に何が残せるかを考えつつ、いろんなアイデアや意見を受け止めながら、まちづくりのお手伝いをしていきたい」と語る。夢の実現に向けて、まちづくりは少しずつ前に進んでいる。相模原市

いた。「神奈川県駅は地下駅で、延長約680メートル、最大幅50メートル、深さ30メートルの地下にコンクリートの躯体を作り込み、最後は埋め戻して上の土地も活用していきたい」。10月25日には掘削が終了、駅の躯体を作り始めました。鉄道の日である10月14日には、中央新幹線事業や工事への理解を深めていただくために、地域の皆様を招いて工事現場の掘削底面を活用したコンサートを開催しました。将来は埋めてしまいう、今しか見られない場所だけに、演奏してくださった相原高校と相模原弥栄高校の皆様や2000人に及ぶ来場者の方々にも、とても喜んでいただけました」

神奈川県駅が新設されるのは、県立相原高校の移転跡地の一部だ。相原高校は、大正時代に設立された伝統ある高校だが、新駅建設に伴って移転。その際に生じた貴重な土地を活かすべく、橋本駅を擁する相模原市では新たなまちづくりが始まっている。11月1日には、「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライ

が掲げるテーマの一つ、テクノロジーの分野では、11月1日に神奈川県、相模原市、JR東海が神奈川県駅周辺開発を契機としたさがみろポット産業特区におけるイノベーションの創出促進を目的とした連携協定を締結。2024年には橋本駅南口付近にイノベーション拠点施設を建設、運営を開始する予定という。JR東海事業推進本部の日下部昭彦担当課長は「中央新幹線の沿線価値向上を目指し、神奈川県駅周辺地域の開発に寄与していくなかで、イノベーション創出や先端技術の社会実装をなし得る弊社のR&D拠点を通してまちづくりのお手伝いをしていきたい」と、その意義を語る。

新駅が完成すれば、品川から約10分という神奈川県駅。駅の開設に伴い、「まち」と「暮らし」も大きく変貌する。住む人も、訪れる人もワクワクするような、新しいまちの実現に期待したい。



左/リニアモーターカー(JR東海提供) 右/神奈川県駅(仮称)予定地

ン」を策定。目指すまの将来像が示された。相模原市都市建設局リニア駅周辺まちづくり部の高木理史課長は「まちづくりのコンセプトは『リニアでつながる 一歩先の未来を叶えるまち橋本』です。もともと橋本地区は、周辺にJAXAをはじめとする研究機関やものづくり産業が集積するほか、鉄道三線や高速道路のインターチェンジも近いことから、リニアがつながることで国内外から多様な人々の往来が期待できます。また、橋本のある緑区は非常に豊かな自然も抱えています。そうしたポテンシャルを十分に活かしながら、最新のまちづくりの潮流や技術を柔軟に取り入れ、さまざまな人が

街に、ルネッサンス

UR都市機構

東北の復興まちづくりに 全力取り組んでいます  
[企画制作]新潮社